

2001年4月1日
第4巻第2号(通巻14号)

UA 神奈川学習センター

はる だより

ハイライト

特集：着任と退任の挨拶

卒業研究の足跡

- 2 新任のご挨拶
- 3 退任にあたって
- 4 私の『卒業研究の足跡』
- 6 「光合成とマンガン」と未来
- 7 学生団体・サークル情報



[イラスト：坂戸五葉]

放送大学神奈川学習センター
〒232-0061 横浜市南区大岡 2-31-1
TEL:045-710-1910
FAX:045-710-1914
<http://u-air.net/kanagawa/>
E-Mail:social@u-air.ac.jp

新任のご挨拶

神代 和俊

この4月から神奈川学習センターの所長を拝命いたしました。21世紀最初の年度に、所長として皆さんとともに学べるのは、とても素晴らしいことだと思います。

私は、前所長の新飯田宏教授と同じく、横浜国立大学経済学部で三十年あまり教鞭をとってきました。専門は、労働経済学・社会政策（年金など社会保障を含む）ですが、放送大学では「産業と技術」専攻に属して、「産業と労使の関係」（テレビ、今学期は土曜日午後1時15分から）を担当し、大学院では政策経営プログラムの「経営政策II・ヒューマン・リソース・マネジメント」（14年度からラジオ放送予定）を担当しています。

私は小学校、中学・高校から横浜育ちで、「浜っ子」を自認しています。郷土の出身である美空ひばり、吉川英

治、獅子文六などを愛好しています。テニスとゴルフとカラオケが大好きで、健康維持に努めています。どれもそう上手くはありませんが、まあまあ人に迷惑をかけずに楽しめる程度です。

放送大学は、生涯学習のためのもっとも重要な機関で、社会人の自己啓発・能力開発にとって、不可欠の教育機関となってきました。これからその役割はますます重要になるものと思います。とくに、学習センターで行われる面接授業や卒業研究指導は、普段テレビやラジオでしか接することのできない教員とじかに議論することのできる貴重な機会ですから、ぜひ積極的に参加していただきたいと思います。仲間の学生たちと一緒にになれるのも大切なことと思います。

私が昭和26年に横浜国立大学に入学した時に、宮崎義一先生（3年前に亡

くなりましたが、名著『複合不況』中公新書を書かれた）が「大学というのは、字のとおり、一人で学ぶところです」と言われて、なるほどそういうものか、と思った記憶がいまでも鮮明に残っています。もちろん教師は、学生の学習が効率的にできるように手助けし、学生諸君の能力を引き出す責任がありますが、本当の学問というものは、所詮、自分で考え、苦勞してはじめて身につくものだと思います。放送大学の場合には、とくにそうだと思います。そのためには、放送教材や印刷教材に出てくることを覚えたり理解するだけでなく、参考文献に挙げられている論文や著作をも、ぜひ貪欲に読んでいただきたいと思います。読書こそ思考の始まりだからです。

特集：

着任と退任の挨拶

放送大学に赴任してから早くも5年が経過することになり、2度目の定年を迎えることになりました。「就任のあいさつ」を書いてからもう5年？というのが実感です。この間、私の専門とする経済学以外の他分野の同僚諸君からも暖かいご厚情を戴いたことに、深い感謝の意を表したいと思います。また、いろいろの面でご協力頂いた事務官の方々にも、心からお礼を申し上げます。

さて、私がこれまでに放送大学で作成した講義は、「現代の経済学」（'96）と「地球環境を考える」（'99）という2本のTV用講義と、「経済学入門」（'00）というラジオ用講義です。現在は、「現代の経済学」を改訂した「現代経済学」（'01）の最後のビデオ撮りが丁度終わるところです。それぞれに思い出があります。

とくに、「現代の経済学」は私のTV講義の処女作で緊張の連続でした。放送大学に着任するほぼ1年前、当時副学長の嘉治元郎先生から、「近代経済

新しい経験 - 5年間の感謝をこめて

新飯田 宏

学のintermediate(中級)クラスの講義を作ってくれ」という要請をお引受けしたのに始まります。私は客員教授(当時横浜国立大学教授)として、学生の顔の見えない講義を初めて経験し、大いに戸惑いました(この感覚は現在作成中の「現代経済学」でも少しも変わりません)。TVというメディアの特徴に精通していれば、もう少し工夫できたのかもという想いが強くなったのは、放送大学の専任教授になってからのことです。やや、Intermediateという言葉にこだわり過ぎたのかも知れません。

最も印象的なのは、放送大学最初の主題科目「地球環境を考える」の制作です。道家・阿部・浜田の3先生と共に、2人のディレクターらを混じえた度重なる会議で、何回も作成プランを練り直したおかげで、否応無しに、他分野の専門家の意見を知り、分析視点の相違を確認できたことが、私には大きな収穫でした。よく勉強したという快い思い出もあります。マナウスから入ったアマゾン河の熱帯雨林、コスタリカの熱帯雨林と生物多様性研究所、専門家とのinterview、環境税をめぐるEU政

策担当者との討論など、厳しい日程での充実した1年といえるでしょうか。

最後の2年間は神奈川学習センター所長として、直接学生に接する機会が増えました。これは放送大学の学生を知る上でも、また放送大学の役割を理解する上でも大いに役立ったように思います。たまたま、センターが横浜国立大学の旧工学部の敷地にあり、弘明寺界隈の桜並木の美しさなど、私には大変懐かしい風景でもあります。学習センターが生涯学習の拠点として、学生諸君の多様な学習意欲に答えられるようにセンター所属の助教授の諸君や事務官達と努力して来ました。

「老兵は死なず、ただ消え行くのみ」という心境にはまだ程遠いようです。実際、卒業研究や面接授業で、もうしばらく学生諸君の研究のお手伝いをさせていただくことになっています。この5年間、研究・教育の面で新しい日々を経験できました。色々ありがとうございます。

特集：

着任と退任の挨拶

退任にあたって - 神奈川学習センターでの12年間 藤井 洋子

この度、3月末をもちまして12年間勤務した放送大学を去り、4月からは日本女子大学文学部英文学科で教鞭をとることになりました。

思えば12年前、アメリカ留学から帰国したばかりの私は、通信制の大学という新しいタイプの大学で、おまけにカルチャーショックも手伝って、何をどうしてよいやらわからない迷い子のようでした。当時の神奈川学習センターは、所長の他に坂井素思先生と私の二人だけという異例の状態でした。そんな中、先輩である坂井先生に教えていただきながらセンターの業務を覚えていったものです。

英語の教員としての初仕事は現在の『英語Ⅰ(96)』の前身である『英語Ⅰ』の作成でした。同僚の平賀正子先生がその年の7月からアメリカに短期留学されることが決定していたので、私が

着任した4月からすぐ制作に入り、6月までに印刷教材の執筆とラジオ収録を完成させなければなりません。何とか無事、平賀先生をお送りし、後は、新人の私と比嘉先生とで印刷教材完成までの校正作業を進めました。物を書くことの大変さを知った今から思うと何という無謀な行為だったかと恐ろしささえ感じます。そして、そんな状態だった私がこの1年間、放送大学のたった一人の英語の専任教員になってしまったことに深い感慨を覚えずにいられません。

着任直後からの私の任務で大きな位置を占めたのが面接授業でした。当然ながら、神奈川学習センターでは、多くの面接授業を担当しました。常に、熱心な学生の皆さんに刺激を受け、今も楽しい授業の思い出ば

りが心に残っています。その中から、英語のサークルができ、長い間お互いに交流が持てたことは、放送大学での私の宝になっています。

私にとって、神奈川学習センターは常に心休まる大切な場所でした。放送大学、そして神奈川学習センターを去ることは私にとって本当に寂しいことですが、この12年間に得た貴重な経験を今後の私の心の糧として、更に精進して参りたいと思います。そして、今後の神奈川学習センターの更なるご発展をお祈りすると同時に、皆さんへ心より感謝申し上げたいと存じます。12年間本当にありがとうございました。

桜樹

皆川 昭三

創作

大岡川の右岸をゆっくり進む二人づれ、後方から不意に飛び降りてきた野鳥が浅瀬にたった。一羽のセキレイが「ピクッ」と尾を振り敏捷に向きを変え頭を突っ込む。可愛らしさに二人の目は奪われていた。少し離れて鯉が三尾、四尾、小さな波紋を描きながら悠然と居座っている。移動範囲ももの辺りにきめているようだ。向こう岸の欄干に凭れ掛かるお爺さんが、パン屑を蒔いている。二人は、黙ってその様子を見ながら前進、風が追うように枯葉一片を足元に、そして水辺にも一片二片舞い落ちる。茫日が水面に光る。弘明寺商店街の方に向かう二人の他には、通行人がこの道には見当たらない。先刻、自転車で追い越した御老人だけである。

きれいなカラーブロックを敷き詰めた散策路に、等間隔で植えこまれた桜並木が、冬を越して春の訪れで芽吹くようになると、又大勢の人を呼ぶことになる。土提の散策路が、川沿いに「くの字」になったり「返しくの字」

になったりして二人の足を導いていく。この春、二人が拡大の入学式に初めて訪れた時、桜が丁度満開で祝ってくれたのだった。思い出の道でもある。大きな枝が道いっぱい張り出し、川面にも精一杯枝を広げ垂れていた。隙間もなく花びしりの桜樹は見渡す限り、空間を埋めつくし、花見客の人々に混ざって歩いたあの日、春爛漫を満喫していた事を思い出していた。屋台店も宴席も、横目で流し、半ば浮かれていたかもしれない。今は静かで彼方の商店街で客を呼ぶ声だけが聞こえてくる。

水辺に降りる階段を目印に、近くの路次を左に折れる。何本かの筋を横切る時に、多くの買物客とすれ違い、混雑を通り抜けると国道十六号線、鎌倉街道の車ラッシュである。渡って向こう側が神奈川学習センター通りとなる。又、入学時の風景を思い出す。

留学生会館の前栽に、フェンスに沿って桜樹が、地域の人々と学習センターの我々も含めて一時期に目を楽

しませてくれる通りである。入学式と桜、勉強と満開、夢と希望の膨らむ時節である。厳しい寒冷を乗り越えて待っていてくれる春が必ずくる。入学して早八ヶ月、来年末には単位認定がある。見事な桜樹を見上げていた二人も、今は試練に立ち向かう意気に燃え、日々重ねてきた学習と復習の成果をチェックするばかりである。センターまで続く里桜も山桜も、資料によれば七十数種類、内この通りで覚えた品種が僅か五種、「普賢象」「松月」「関山」「一葉」それに「大島桜」の名木が並んでいる。これをきっかけに彼女は、後日譚として図書館で植物、花鳥の資料を調べる習慣がついたのである。枯葉舞う桜樹を脇目に、二人は、すうっと神奈川学習センターの門に吸いこまれるように消えて行った。

私の『卒業研究の足跡』

放送大学の卒業研究履修は、放送大学に通う学生にとって最も苦しく、そしてもっとも価値のあるイベントではないかと思えます。しかし、この卒業研究に関しての情報は、放送大学が通信制の大学であるという構造上なかなかつかめにくく、不安感のなか卒業研究を行っているという側面があります。わたしもつい先日まで卒業研究を履修していました。そして、先にあげた不安感や焦燥感をうち勝ち研究を進めるには同じように卒業研究をうち込んでいる人たちと情報交換や交友なしでは難しいのではないのか、少なくとも今の自分をより高みを目指すのであれば、自分一人では限界があるのではないのかと思えてきました。そこでインターネット上に『放送大学卒業研究情報交換のボード』という掲示板を立ち上げ、その掲示板を軸にして様々な人たちと情報交換、学生の交流をおこなってきました。この『私の卒業研究の足跡』は、そんな仲間たちの卒業研究の感想をいただいたものです。

私の『卒業研究の足跡』(1)

氏名(もしくはハンドル名):森本 奨
(モーリン)

所属センター:千葉学習センター 専攻:人間の探究

履修年度:平成12年度 指導教官:青山昌文助教

研究テーマ:『シュルレアリスムにおける「オートマティスム」について』

卒業研究履修を終えた感想はどうですか?

ひとこと疲れしました。想定していたものより、厳しかったですね。

いくつかのアクシデントも重なって卒業研究報告書はちょっと尻切れトンボになってしまったのが惜しいです。しかし、一方で今回取りあげた「テーマ」は、僕自身が感じていたことと思っただけか、離れただけか、わかったのがわかっただけでも自分として良かったのか、かもしれないと感じています。

卒業研究履修中で苦労したことがありましたらお聞かせください。

苦労したことは、まず使用する文献資料の探索と整理でした。インターネットを介して文献資料の探索はある程度データ化できたのですが、その整理がちょっと大変でした。ちなみに一覧表化できたのは7月頃。

つぎに、8~9月といろいろなアクシデントが重なってほとんど論文制作ができなかったのは、非常にいたかった。この時期、使用していたPCが壊れデータ整理も論文制作もほとんどできない状況に追い込まれました。幸いデータが無事だったのが救いです。また、イレギュラーな仕事はどういうわけか突然入ってきて、論文制作に当てていた時間がつぶれてしまったのも苦しかったですね。この時期できたことと言えば、ひたすら文献を読むことだけでしたが、それも前述した理由で思うに任せない状態でした。

卒業研究を履修して良かったと感じたことはありますか。

まず、少々苦しくても自分が頑張ればなんとか結果は残せるっていうことは、これから先、自分自身が様々な研究等をおこなっていく上で、大きな自身でになりました。つぎに、僕自身、インターネット上での卒業研究に関するWebページや掲示板を主催したことで様々な人たちと意見・交流を行えたことはまた別に意味が良かったです。もし彼らがいなければ、卒業研究を最後まで続けることができたかどうか非常に怪しいですね。

これから卒業研究をおこなう方たちにひとこと。

卒業研究を無事に終わるために一番大事なことは、やる気、いわゆるモチベーションを最後まで持続させることできるかどうかだと思います。そのためには自分がやりたいテーマをちゃんと見据えておく必要があると思います。

つぎにおなじ卒業研究をおこなう仲間を持つということです。別に専攻や指導教官、そして学習センターが違ってかまいません。仲間がいる、そして彼らも自分と同じく苦労

共同企画： 卒業研究の足跡

していると感じるだけでも、なんとかやる気を維持できます。また、彼らと情報交換や勉強会をおこなうことは、自分にとっていろんな意味でプラスになります。

最後に、放送大学生の方々ほとんどパートタイマーであり、卒業研究に向かい合える時間は非常に限られています。そのため、最初のゼミまでに、1)文献リストの作成、2)取り組むテーマの概要の作成、3)アウトラインの構築などをおこなっていると、ゼミの指導を受けやすいし、また、ご自身の卒業研究をおこなう上でも取り組みやすいと思います。

どうもありがとうございます。

私の『卒業研究の足跡』(2)

ハンドル名:ひめ

所属センター:東京第二学習センター 専攻:社会と経済

履修年度:平成12年度 指導教官:岩永雅也教授

研究テーマ:『先生の通信簿 面接授業編』

卒業研究履修を終えた感想をお聞かせください。

もっと早くからちゃんと計画を立ててやっていればよかったと思う。教授となかなか意見が合わず、テーマと研究方法が最終的に決定したのが既に6月だった。それから「手探りでとにかくやってみた」という感じだったので、最後の1ヶ月は「何としてでも提出できるところまでは終わらせなければ!」という情けない目標のために、徹夜でするハメになった。(仕事と両立のため)

卒業研究の履修で苦労したことがありましたらお聞かせください。

アンケート調査をするのに必要なコスト(往復の切手代、封筒代、コピー代など)の他に自宅に電話回線もパソコンもなかったため、コンビニのファックス代やインター

ネットカフェ代などで散財した。自分の思い描いていた具体的な設計図を実現させるだけの時間とスキルが不足していたため、実際に提出できるであろう予想完成図とのギャップで最後まで苦しんだ。自業自得とは言え、これが1番辛かった。

卒業研究を履修して良かったと感じたことはありますか。

指導教官に恵まれたと思う。とても協力して下さった。とにかく熱心でフレンドリーかつ親切だった。

アンケート用紙を配布するため面接授業に乱入したり、サークルの代表の方に(面識のないまま)電話をお願いしたり、ずいぶんご迷惑をおかけしたのに配布を断る方が1人もいらっしやらなかったことがとてもうれしかった。自分で見ても粗末なアンケート用紙であったにもかかわらず、賛否両論取り混ぜて50%近くの方が記入して下さいたときは感動した。

他にになにかありましたらどうぞ。

最初にやろうとしていたこととかなり角度が変わってしまった為にこんな苦勞をしたのかもしれないが、でも、やりたい事が皆様の協力で実現できたという意味では、深い感謝とともに自己満足できた。

これから卒業研究をおこなう方にひとこと：

テーマが決まる前から論文の「How to」や、ワープロと表計算ソフトの使い方などは勉強しておくべきです。テーマが決まってからそんなことをしていると、私のような目にあいませぬ。

どうもありがとうございました。

私の『卒業研究の足跡』(3)

ハンドル名：ゆきこママ

所属センター：福岡学習センター 専攻：発達と教育

履修年度：平成12年度 指導教官：永野重史教授

研究テーマ：『初等・中等教育におけるコンピュータ教育の可能性』

卒業研究履修を終えた感想はどうですか？

絶対無理と置いていてもやりたいと思えばやり始める。そうすれば自然と自分の中で力が湧いてくる。周りの人も自分の熱意を感じて協力してくれる。ということが実感できました。強く思えばできるということはこの歳まで体験してこなかったので、貴重な体験でした。一生の財産になると思っています。

教訓・・・「卒研は、やらなくて後悔するより、やって後悔したほうがいい」

卒業研究履修中で苦勞したことがありましたらお聞かせください。

両親の介護をしながらの履修だったので、上京することが一番大変でした。幸いゼミが全2回しかなく、負担が少なかったので実現出来たと思います。2回とも福岡-東京日帰り、家族や妹に協力してもらってこなしました。家を空けられなかったので、福岡の学習センターにも行けず(今年一度も行っていない)、図書館もろくに行けなかったのが辛かったです。インターネット、電話、手紙などを利用して資料や図書を集めました。

履修が始まってすぐに母が他界し精神的に大変落ち込みましたが、ネットの友人に励まされてなんとか立ち直りました。また、提出間際に父が危篤状態になりもうこれまでと諦めかけたのですが、教授や友人に励まされて提出だけはしようと思い直し、病院の父のベットの脇で、終日、丸イスに座ってひざの上で書き上げました。

卒業研究を履修して良かったと感じたことはありますか。

自分で調べ自分で論文にまとめるという能動的学習を学んで来なかったので、本当の学習というものを知ることができました。また、教科書や放送授業でしかお目にかかれないうような有名な教授に直接指導してもらい、地方に住む平凡な主婦としては夢のような体験だったと思います。永野教授は、いつも速達で資料や添削を送って下さって、私も萎えがちなモチベーションを維持することができました。

ネットを通じて多くの学友に助けてもらい卒研をやったお陰で実際オフ会で会うことの出来た友人も多く、

通信制大学の中において多くの友人を作れたことが良かったです。また、卒研履修している多くの仲間も仕事や家庭の事情、健康上の問題などで大変苦勞して履修していたことを知り自分だけじゃないと頑張る勇気を頂きました。

資料集めのノウハウや文章の書き方、本の読み方、コンピュータスキルなど。自分の勉強すべき、勉強したいことを知るきっかけにもなりました。

他にになにかありましたらどうぞ。

自分の出来る範囲で調査できるテーマを選ぶというのも卒研の場合重要だと思います。私の場合も、数校の授業見学やインターネットを使ったアンケートなんかも考えてテーマを決めたのですが、結局小さくまとめるをえなくて、内容と題名が合っていない事になってしまいました。最後に題名を変えるべきだったと反省しています。逆に言えば、自分の興味に沿って資料をそろえるのではなく、手に入る面白い資料を元にテーマを考えるくらいしないと、1年くらいでは論文としてまとめるのは難しいかもしれません。

これから卒業研究をおこなう方たちにひとこと。

大学の卒論くらいで大学教授をあっと思わせるほどの研究はできないです。

「開き直り」と「はったり」を motto にすると不思議と筆が進んだ気がします。

どうもありがとうございました。

今回の「共同企画：卒業研究の足跡」は、森本奨氏主宰による下記の Web サイトの記載をアレンジしていただいたものです。掲載を許可して下さった参加者の方々と森本氏のご協力に感謝いたします。

『卒研の足跡』

URL=<http://www5a.biglobe.ne.jp/~morin/sotuken.html>

『私の卒業研究の足跡』

URL=http://www5a.biglobe.ne.jp/~morin/ashi_x2.html

『放送大学卒業研究情報交換のボード』

URL=http://tcup70.tripod.co.jp/7024/s_morin.html

「光合成とマンガン」と未来

若林 孝次

私は前々から光合成（明反応）をテーマにした研究をしてみたいと思っていました。私は以前に「植物生理学」を履修したことがあります。光合成に関するその印刷教材の記述は、ページ数がぐっと増え内容も非常に細かくなりますので、明反応をまともに卒業研究のテーマにするのはむずかしいと思っていました。しかし、その当時の私は明反応のどの部分的をしばって研究すればよいのか、考えがまだ漠然としていて輪郭もはっきりしていませんでした。

そのような状況の下で、たまたま東京工業大学の藤平正道先生が東京都大田区的一般区民を対象にした講義で話されたことがありました。その講義の表題は「分子材料としてみた生体物質～有機物質ははまだ謎探し～」でした。この表題は事前に予告されましたが、この表題を知っていても、どのように具体的に話をされるのか、

ほとんど想像が付きませんでした。藤平先生が実際に話された内容は「光合成のしくみをまねる」というもので、話の中心は電子伝達系のことでした。電子の移動について実験し調べるために、LB膜という人工の有機化合物の膜を手探りで作る必要があります。その苦勞のことも含めて話されたので、「分子材料としてみた生体物質」というむずかしい表題になってしまったのだと思います。本論は「あつという間」のことでした。すなわち、フェムト秒単位の電子の移動の話、エネルギーの移動の話でした。平成12年4月に開講された「光と物質」の第9章と第10章を一般区民向けにやさしく話をされたような内容でした。

ところで、私が関心を引いたのは、その本論の電子伝達系の話ではなく、序論に話されたマンガンの機能のことでした。本当は、明反応におけるマンガンの役割は、専門家の研究でも解

明されていないのですが、このマンガンを一つのキー・ワードにして、研究テーマの中心に据えたらよいと思いつきました。

光合成を離れて、化学の視点から酸化還元とマンガンの研究を考えれば、扱いやすいテーマになりそうです。しかし、明反応とマンガンの関係を研究するためには、マンガンとタンパク質の機能の関係を研究しなければなりません。私の卒業研究の範囲では、明反応におけるマンガンの機能全般ではなく、多少なりとも何らかの形で、マンガンとタンパク質とが影響を及ぼす相互作用の実験を模索できればよいと考えています。

私の未来の課題は、紫外線を吸収する酸化チタンの光触媒の研究ではなく、可視光線を吸収するマンガン化合物の光触媒の研究です。そうは言っても、私の研究意欲は「淡きこと水の如し」で、すぐに蒸発分解してなくなってしまうかもしれません。

学生生活

卒業して

吉野 美代子

いま私は、学び終えた教科書を山にして、忙しく、かつ楽しかった数年を省みた。

面接授業32、放送授業94、ぎりぎりの単位取得で、6年目によく卒業出来た。科目数にして80科目、人間の探求を中心に興味を引いたもの、知識を深めたいものと実に様々、広範囲にわたって勉強してきた。通信指導に悪戦苦闘しながらも“朱”の入ったレポートが返却されるとうれしくて何度もコメントを読んだ。

思えば、子供の大学受験を期に、一足早く始まった一介の主婦の学生生活は、バブルがはじけ世の中が殺伐とした中で子供達が荒れ、世界には紛争が絶えず、愚かな歴史が繰り返されて、人間って一体何なのという素朴な疑問を抱いて始まった。

地球には、数多くの民が、それぞれの文化を持ち生活している。その有様は多種多様で視点によって見方、考え方が違ってくる。勉強は、歴史、文化、芸術、教育と多方面にわたった。

文化人類学では、人種と民族の違い

を学び生活文化史では、身の回りの生活に関係する行事、道具、習慣などの意味を学び、教育心理学では、教育を繰り返すことによって少しづつ進歩する事が大事だと教わった。中でも「芸術の古典と現代」の青山先生の講義は、盛り沢山の内容を早口の笑顔で知る事の楽しさをこめて話され、スーニオン岬の映像の美しさと共に印象深いものであったし、ドイツの国会議事堂であるライヒスタークを芸術家のクリムトによって梱包される課程は、建物ばかりでなく、一人一人の心の奥深いものを包むという芸術の本質の提示として興味深かった。又、「大地と人間、食、農、環境の未来」で、じつは失われ行く日本の棚田が、地形が急峻で、川が短く、梅雨と秋の台風時に雨が集中する日本にとって大切なダムとなり得ると、富山和子先生に教わり、目からウロコが落ちる思いであった。木を植える文化を持った日本は、スギを植えることによって湧水を防ぎ、土壌を養い、米をつくる棚田へ流し、飲み水にする。自然環境保護を自己完結という最も理想的な

自然との付き合い方の土地利用していた日本であると知った。

面接授業では、先生方の個性あふれる授業形態にふれることが出来た。実習あり、スライドあり、レポートあり、資料の解析あり、実験ありで理解力に乏しい私は恥じ入るばかりであったが、皆出席で授業を楽しんだ。

二俣川ガンセンターの岡島先生の婦人のガン概説では、恐ろしいガン細胞の組織が形成される様子や、良性の新生物である筋腫が驚くほどの大きさになり、ゴミの固まりになっていくかをスライドで見せて下さった。うとましく思っていた婦人の子宮は、「想像する以上に美しいのだよ」と言われた先生のお言葉に感激し、自分の浅はかな無知を悔いた。

逸脱の社会学の緑川先生には、身近で起きている事件や情報に、社会規範に合わず、逸脱ととらえられる事柄があることを教わった。人は知らぬ間に学習したり、コントロール

されたり、統制されたり、ラベリングしたりする。流動する社会にあって私達は自己の価値観をもって行動する事が大事なだろう。

参加させていただいた研修旅行は、どのプログラムも有意義で素晴らしい。火山地質学実習では、天明3年、浅間山大噴火の土石なだれで埋没した嬬恋村や、鬼押し出しの奇観、いまなおガスを吹き出す白根山、清流の傍で熱い湯をたたえている草津温泉の「賚の河原」の泉、軽石から流れ出る軽井沢の滝の白糸等を見学した。住居学実習の研修旅行は京都で、夜に講義を受け、翌日見学の二泊三日であった。銀閣寺の「東求堂」での最古の書院、曼珠院の茶室やしつらえ、弧蓬庵の忘笠や舟窓、床の間、畳に座って庭園を眺め、障子明かりの中で日本の美を堪能した。比叡山を借景とした枯れ山水の円通寺の庭、大徳寺真珠庵で一休さんとの対面、江戸時代の町人

文化の建物である揚屋の角屋では勤王の志士達が活躍した証である柱の刀傷等々、埼玉、大阪、京都の学生もおられ、充実した旅であった。神奈



川学習センター主催の日帰り研修旅行「ペルー来航と音楽」では、笠原先生の具体的な例をあげての講義が大変に楽しく、横浜の当時の情景がありありと想像でき、あたかも音楽が聞こえて来る歴史的体験を持ったような気がした。特にテーマも持たず、その時々興味を持ったものを勉強した結果、様々の事柄が納得出来て、人々の話も余裕を持って聞けるようになった気がする。

いただいた“学位記”は、私の秘かな宝物となった。体育単位の取得のために教わった社交ダンスは、いまでも続け、再履修でやっと単位のとれた英語は、横文字の多くなった現代生活のなかで役に立っている。学生生活を終え、主婦にもどった私は、どんな人間をもいとおしく感じられる。それぞれの立場で、しなければいけないものを、責任を持って行う事が大事なのではないかと考えている。6年間、御指導いただいた先生方、共に頑張った友達、そして支えてくれた家族に感謝したいと思う。

学生団体・サークルのお知らせと活動報告

Nancy Class & うえるかむ

平成7年からアメリカ人講師Nancyより英会話の指導を受けています。

学校の勉強にも忙しい仲間ですので月2回の例会ですが、日本人のウィークポイントの一つであるリスニングの力も、少しずつついてきたのでは、と思っています。

例会 第2水曜 10:00~11:30
第4水曜 10:00~11:30

“うえるかむ”は海外学生交流サークルとして各学習センター有志で平成7年に発足、今迄にタイのスコタイ・タマチャートOpen University, 台湾の空中大学と師範大学へ訪問、又オーストラリアでのホームステイも体験しています。今年4月にはイギリスのOpen Universityを訪問します。

神奈川学習センターではNancy Classで少し緊張した後、NHKテキスト英会

話入門をはじめニュースコラムを読んだりおしゃべりを楽しんでいます。

例会 第2水曜 13:00~15:00
第4水曜 13:00~15:00

*各学習センター合同行事は、毎月1回程度開催

皆様のご参加をお待ちしています。

連絡先

星 045-844-9647
坂本 0467-31-8036 (19時以降)

人間学研究会

【例会予定】(2001/04 ~ 2001/07)

4/08(日) 第16回総会
5/12(土) 四重奏曲でたどる西洋音楽
パッサー・スティープ・ライヒ
坂田さん
6/16(土) 自我が確立する過程について
頼成さん
7/08(日) 内容未定

【例会】

連絡先: 松本清康 045-302-1121

【歩きましょう予定】

4/14(土) ~ 4/15(日) 第4回甲州街道を歩く

甲斐大和駅~甲府~韮崎、9:10AMにJR甲斐大和駅集合

4/22(日) ~ 4/25(水) 第16回おくのほそ道を歩く

象潟~吹浦~酒田~由良~念珠ヶ関、9:00AMにJR羽越線象潟駅集合

5/07(月) ~ 5/10(木) 第17回おくのほそ道を歩く

大石田~新庄~草薙温泉~手向~鶴岡~酒田

上記以外に、ゴールデンウィーク中(4/28~5/6)の日帰りハイキングを予定しています。

【歩きましょう】

連絡先: 大出鍋蔵 0468(41)7937

神奈川放友会

新入学の皆さん入学おめでとう御座います。在学生の皆さんも新学期を迎えて気分新たに準備中と思います。

神奈川放友会は神奈川学習センター所属の学生団体(会員141名)です。会員相互の交流の輪を拡げて親睦を図り、学習を援助する為下記のサークル活動を行っています。

- ・行楽と研修を兼ねた旅行
- ・研修旅行(大学本部・図書館等)
- ・旅にいこう会(行楽地・名所旧跡等)
- ・学習に関する情報交換
- ・会員相互の研究発表

放送大学での学生生活をより一層充実させ交流の輪を拡げたい方の入会をお待ちしています。

行事予定(4月~9月)

- 4月7日新会員勧誘と歓迎会
- 4月21日13年度総会・4月例会
- 5月20日5月例会・情報交換
- 6月17日旅に行こう会
- 7月15日試験直前の情報交換
- 8月26日フェスタ・ヨコハマ
- 9月15~16日一泊研修旅行照会/入会申込先

〒235-0023 横浜市磯子区森 1-15-1-810
吉田 昭二
Tel/Fax 045-752-2783

神奈川放友会活動報告

国府津丘陵、曾我梅林の旅 堀口裕子

2月18日の南関東の天気は曇りでした。出掛ける前は曇っていたので少しがっかりしていたのですが、集合場所の国府津駅へ向かう電車の中から外を眺めていたら、だんだん晴れてきたのでワクワクしてきました。私は集合時間の30分前に着いたので、一寸早すぎたかなと思っていたら、幹事の小林さんと参加されるメンバーの人が、もう2、3人いらしていました。皆さんが集まり自己紹介の後、13Kmの道程(国府津駅 菅原神社、安楽院、光明寺 国府津丘陵 見晴台 公民館 宗我神社 城前寺 曾我梅林)を歩く事になりました。

放友会では珍しく私と年齢が一つしか違わない宮崎真弓さんと話が合い、色々話しながら山道を登って行きました。途中160度ぐらいの展望の開けた所で一休憩ということに。富士山は大きく見えるし、双子山金時山その他さまざまな山が一望できる所でした。山道の途中で買った有機栽培の下曾我みかんや、飴やチョコレートがメンバーの間で行ったり

来たりしました。

しばらく登りだったり平坦だったりした道を通り過ぎると急な坂道が現れました。年齢の若い私でもこれはちょっと大変なのではないかと思うくらいでした。放友会会長は70才を超えられているのだが、大丈夫なのだろうか?などと……。けれど、なんとなく乗り越えられ、さすが会長という感じでした。坂道を登りきり展望見晴台へ到着。休憩を入れて記念撮影を済ませ、又出発。

しばらく歩いて昼食予定の公民館でお弁当を食べ、道端のお宅の黄梅が咲いているのを見ながら、又歩き出しました。城前寺へ向かう途中で店があり、名物の梅干しなどを売っていて品物を見ていると、店の人がお酒を振る舞ってくれました。(『曾我の誉』というにぎり酒でした。)お酒はあまり飲まないけれど美味しいと感じました。

城前寺山内を一周した後、曾我梅林へ到着。曾我梅林に着いてメンバーの人のピニールシートに腰を下ろさせてもらいました。心地よい疲労感を感じて13Kmの道程はあっという間でした。楽しい時間は早く過ぎると感じるのでしょうか。参加者16名全員が感想を述べ合い、記念写真の後、予定通り15時に解散しました。

天気は晴天だし、富士山は素晴らしいし、梅は綺麗だし、皆さんとお話してきたし、ミカンも梅干しも美味しいので、放友会に入って良かったと思う一日でした。

放送大学同窓会

2月25日(日)のデンマーク映画『パベットの晩餐会』の鑑賞会は坂井先生の解説で一つの物語が色々な見方ができて、楽しい鑑賞会になりました。多数の方々に参加して戴き有難うございました。今後の行事にも多数参加して下さい。

【春の東京お台場を訪ねる会】

1. 日時:平成13年4月22日(日)
 2. 集合場所と時間:
 - ・ JR横浜駅7、8番線ホーム東京寄り(10:00)
 - ・ 直接フジテレビ、インフォメーション(11:10)
 3. コース:フジテレビ ワイルド・フラワー 昼食 船の科学館(宗谷、羊蹄丸見学)
 4. 申し込み(4月10日迄):
出口仁美 (TEL/FAX 0467-24-0160)
佐々木順子 (TEL 045-472-6482)
- 【第12回定時総会】
1. 日時:平成13年5月13日(日)13:00~
 2. 場所:神奈川学習センター講義室
- 【講演会】
1. 日時:平成13年5月13日(日)14:30

~(総会終了後)

2. 場所:神奈川学習センター講義室
3. 演題『ゲーデルの業績について』(仮題)
4. 講師:隈部正博助教授
講演会の後、懇談会を計画しています。奮って参加して下さい。
《問合せ先》
出口仁美(TEL/FAX:0467-24-0160)
佐々木順子(TEL:045-472-6482)
(伊東記)

投稿

ぼくの誕生日と他者

佐々木健充

ぼくはあと7、8分で生まれて36年がたつ。

子供の頃

将来「自分が何になるか?」などと作文で書かされたが、実際のところわからなかった。

ただ今まで生きてきて

自分の良いところを伸ばして、できれば他者のためになる仕事をしたいなと思っている。

神奈川学習センターだより編集部

発行者:神代和俊

編集者:五十嵐、遠藤、星、加藤、松本、皆川、吉田、斎藤、浅野、坂井

- ・イラストは、坂戸五葉さんに描いていただきました。今度、センターだより表紙絵のギャラリーをインターネットに開設しようと考えております。これまで印象に残っている坂戸五葉作品について感想をお寄せください。
- ・次回、神奈川学習センター「なつ」だよりの特集テーマは、「面接授業を受けるときに工夫していること」です。資料整理の方法、ノートのとり方など、学生の方々の経験談・原稿を募集いたします。1200字程度にまとめて6月上旬までに、センター窓口までお寄せください。
- ・センターだよりのバックナンバーがインターネットに掲載されております。掲示板も設けております。
<http://u-air.net/kanagawa/>